
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2011年7月～8月）

気象庁



図 1. 2011年7月～8月に目立った活動があった火山

丸山（ $43^{\circ}25'03''\text{N}$, $143^{\circ}01'52''\text{E}$ ）

8月24日から丸山の東側数km付近で地震活動がみられ、同日22時58分頃にマグニチュード4.2の地震が発生し、上土幌町清水谷で震度1を観測した。その後地震活動は次第に低下している。

丸山の火山活動に関する異常現象等の通報はなく、国土地理院のGPSによる地殻変動観測でも火山活動に関係するような変動は認められていない。

草津白根山（ $36^{\circ}37'22''\text{N}$, $138^{\circ}31'55''\text{E}$ ）

7月18日23時43分頃に振幅のごく小さな火山性微動（継続時間：約70秒）が1回発生した。微動発生前後で空振計の記録及び湯釜火口内の噴煙の状況に特段の変化は認められなかった。火山性微動が発生したのは、2011年5月27日以来である。

火山性地震は、火山性微動が発生した7月18日、及び7月28日、7月30日にやや多かった。また8月16日から8月18日にかけて湯釜から湯釜の南付近を震源とする

振幅の小さな火山性地震がやや多く発生したが、その他の日は少ない状態で経過した。

地殻変動には特段の変化はみられなかった。

6月27～29日（期間外）及び7月12～13日にかけて実施した現地調査では、北側噴気地帯及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で引き続き明瞭な噴気が確認され、前回観測時（2011年3月30日）と比較して特段の変化は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、湯釜火口内北壁、北側噴気地帯、及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面の熱活動が継続していたが、これまでと比較して特段の変化は認められなかった。上記の噴気孔周辺の地中温度は、引き続き高温の状態が継続していた。

8月10日に群馬県の協力により実施した上空からの観測では、湯釜火口とその北側噴気地帯で、前回（2011年6月14日）と比較して、噴気や高温域の状況に特段の変化は認められなかった。

焼岳（ $36^{\circ}13'37''\text{N}$, $137^{\circ}35'13''\text{E}$ ）

2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活動が活発化したが、その後、地震活動は低下してきている。7月3日21時35分に焼岳の北北東を震源とするマグニチュード2.6の地震が発生し、岐阜県高山市で震度1を観測した。この地震の後、7月4日に同領域で地震が一時的に増加したが、その後減少してきている。

7月26～28日及び8月4～5日にかけて実施した現地調査では、北峰南斜面、北峰東斜面、焼岳北斜面、焼岳展望台南斜面、及び岩坪谷の地表面温度分布に特段の変化はみられなかった。北峰東側噴気孔、昭和37年噴火跡噴気孔、及び焼岳展望台の噴気孔の最高温度は、それぞれ約 103°C 、約 95°C 、約 39°C で、前回（2008年6月7日、それぞれ約 107°C 、約 93°C 、約 39°C ）と比べて特段の変化はみられなかった。また、各噴気孔では弱い噴気が認められた。

火山性微動の発生等、直接噴火活動に関連するような変化は認められない。

富士山（ $35^{\circ}21'39''\text{N}$, $138^{\circ}43'39''\text{E}$ ）

3月15日22時31分に発生した静岡県東部（富士山の南部付近）の地震（マグニチュード6.4）以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加した。その後、地震活動は低下してきている。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていない。

伊豆東部火山群 (34°54'11"N, 139°05'41"E)

7月16日夜から伊東市汐吹崎付近を震源とする微小な地震が増加し、7月17日から7月19日朝にかけて地震活動が活発化した。7月18日03時59分と7月18日04時21分には、マグニチュードがそれぞれ2.5と2.8の地震が発生し、伊東市大原と東伊豆町奈良本で震度1を観測した。その後地震活動は静穏に経過し、8月は震度1以上を観測した地震はなかった。

7月16日夜からの地震活動に先行して、東伊豆町に設置している東伊豆奈良本体積ひずみ計で縮みの変化が認められ、伊東市に設置している猪山傾斜計でも変化が始まり、7月19日頃まで継続したが、地震活動の低下とともにその変化も鈍化し、7月20日以降は特段の変化は認められない。

噴火に結びつくような低周波地震及び火山性微動は観測されていない。

三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

噴煙高度は火口縁上200~500mで経過した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中3回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり500~1,000トンと、やや多量の火山ガス放出が続いている。また、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、8月18日に一時的にやや多くなったが、その他の日は少ない状態が続いている。

8月18日04時12分頃及び8月27日06時05分頃に振幅の小さな火山性微動(継続時間はそれぞれ約80秒、約90秒)が観測されたが、いずれも空振は観測されず、降灰も確認されなかった。

全磁力観測では、火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった。

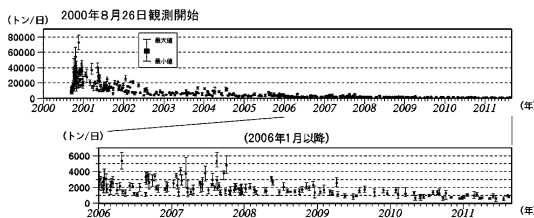


図 2. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年8月26日~2011年8月31日)

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

硫黄島 (24°45'02"N, 141°17'21"E (摺鉢山))

地震活動は2011年2月末頃から高い状態が続いている。

国土地理院の観測によると、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から12月にかけて一時鈍化したが、2011年1月末頃から隆起速度が増加し、現在も続いている。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。元山の南東側では、8月26日頃から局所的な西向きの変動がみられる。

福徳岡ノ場 (24°17.1' N, 141°28.9'E)

8月6日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に変色水は確認されなかった。なお、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山(新燃岳) (31°54'34"N, 130°53'11"E (新燃岳))

【噴煙等表面現象の状況】

新燃岳では、6月29日(期間外)に発生した噴火が7月1日01時21分まで継続したほか、8月6日09時41分頃と18時29分頃にごく小規模な噴火が発生した。また、8月31日02時43分に小規模な噴火が発生し、9月6日13時50分(期間外)まで継続した。爆発的噴火は発生しなかった。

8月6日の噴火では天候不良のため噴煙を確認できなかったが、同日実施した聞き取り調査では、降灰は新燃岳北西方向に分布し、新燃岳から約15km離れたえびの市まで確認された。

8月31日の噴火では噴煙が火口縁上500mまで上がり南西へ流れた。同日実施した現地調査及び聞き取り調査では、降灰は新燃岳南西方向に分布し、新燃岳から約20km離れた霧島市隼人町まで確認された。また、9月1日(期間外)に実施した聞き取り調査では新燃岳から約60km離れた日置市東市来町でも確認された。

いずれの噴火でも大きな噴石の飛散や火砕流の発生は確認されなかった。

噴火時以外は白色噴煙で火口縁上概ね100mで経過した。

【地震や微動の状況】

火山性地震は、増減を繰り返しながら多い状態で経過し、月回数は7月が3,764回、8月が3,997回であった。

振幅の小さな火山性微動が時々発生した。8月6日09時41分の噴火に伴い振幅の小さな火山性微動が発生し、11時16分まで継続した。8月6日18時29分の噴火に伴い振幅の小さな火山性微動が発生し、19時49分まで継続した。8月31日の噴火発生直前の02時41分には振幅のやや大きな火山性微動が発生し、その後は振幅が小さくなり9月6日02時06分(期間外)まで断続的に続いた。火山性微動の継続時間の月合計は7月が8時間44分、8月が26時間42分であった。

【火山ガスの状況】

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、8月3日、8月29日には一日あたり、ともに100トンと少ない状況であった。

【地殻変動の状況】

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへのマグマの供給が続いていることを示す変化がみられている。

傾斜計では、7月3日22時頃から新燃岳側のわずかな隆起を示す変化が認められていたが、噴火は発生せず、7月4日11時34分の火山性微動発生後に沈降に転じ、隆起以前の状態に戻った。また、7月6日00時頃から再びわずかな隆起を示す変化が認められたが噴火は発生せず、7月9日12時頃からゆるやかな沈降を示す変化に転じた。また、8月6日09時41分頃と18時29分頃に発生したごく小規模な噴火及び8月31日02時43分に発生した小規模な噴火に伴い、新燃岳のわずかな沈降を示す変化が認められた。

桜島(31°34'38"N, 130°39'32"E(南岳))

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が7月は79回(そのうち爆発的噴火は48回)、8月は142回(そのうち爆発的噴火は86回)と活発な噴火活動が継続した。これらの噴火に伴い、大きな噴石が最大で4合目(昭和火口から800m~1,300m)まで達した。7月12日18時43分の噴火では、昭和火口から南東へ約300m流下するごく小規模な火砕流が観測された。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中4回実施)では、一日あたり1,200~1,900トンとやや多い状態であった。

気象庁が桜島島内で行っているGPS連続観測では、島内がわずかに収縮する傾向が見られる。有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、特段の変化は認められなかった。

また、国土地理院によるGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張による長期的な伸びの傾向

がみられる。

7月11日に、大隅河川国道事務所の協力を得て実施した上空からの調査では、5月31日と同様に昭和火口の火口底に新たに上昇してきたと思われる溶岩が確認され、溶岩の中央部には赤熱した領域が認められた。この溶岩は火口底部北東側に位置し直径30~40m程度であった。赤外熱映像装置による観測でも、今回確認した溶岩に対応した部分に高温の領域が認められ、前回と比べて特段の変化はなかった。今回も確認された溶岩は少量であり、現在、噴出物量や地殻変動に特段の変化はないことから、大量のマグマが桜島直下に移動した可能性は低く、ただちに火口外に溶岩を流出することはないものと考えられる。南岳山頂火口では、噴煙の量は少なく火口縁を超える噴煙は観測されなかった。A、B火口とも水が溜っていた。

8月27日夜間に実施した現地調査では、昭和火口から誰にでも聞こえる程度の連続した鳴動を確認した。また、昭和火口での爆発的噴火の直後には、肉眼で明らかに認められる程度の火映を確認した。赤外熱映像装置による観測では、前回(7月14日)と比べて火口周辺の熱異常域に特段の変化はなかった。

8月30日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、昭和火口底の状況は噴煙のため確認できなかったが、赤外熱映像装置による観測では、火口底の広い範囲で120°C程度の高温の領域が認められた。この高温の領域は、繰り返す噴火に伴い噴出した噴石が堆積しているために生じたものと考えられる。また、噴煙の噴出口に対応した部分にさらに高温の部分が認められた。火口周辺には日射の影響を超える熱異常域は認められなかった。南岳山頂火口のA火口では、火口底中央部に薄い水色の水が溜まっていた。その量は前回(7月11日)に比べ増加しており、白色の噴煙が上昇していた。B火口では引き続き赤褐色の水溜まりが確認でき、噴気等の状況は前回に比べ特段の変化は認められなかった。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、2011年6月は24万トン、2011年7月は10万トンであった。

薩摩硫黄島(30°47'35"N, 130°18'19"E(硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いている。同火口では7月29日、8月1日、8月9日及び8月10日に夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測した。

火山性地震は、8月21日に日回数が49回と一時的に増加したが、それ以外は少ない状態で経過した。振幅が

小さく継続時間の短い火山性微動が8月に8回発生した。

口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E)

火山性地震は少ない状態で経過したが、7月25日には33回と一時的に増加した。

火山性微動は少ない状態で経過した。

GPS連続観測では、新岳を挟む基線で2010年9月頃から伸びの傾向が続いている。

諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しなかつ

たが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

日本の火山活動概況 (2011年9月~10月)

気 象 庁



図 1. 2011年9月~10月に目立った活動があった火山

吾妻山 (37°44'07"N, 140°14'40"E)

大穴火口の噴気の高さは、50~700mで経過し、噴気活動はやや高い状態が続いている。

大穴火口では、10月11日夜から10月15日明け方までの期間を除き、夜間に高感度カメラで明るく見える現象を毎日観測した。この現象を観測した前後で火山性地

震の増加はなく、噴煙の状況や空振計及び地殻変動データにも特段の変化はなかった。この現象は硫黄の燃焼による発光と考えられる。大穴火口が明るく見える現象は、2010年5月及び2011年3月~8月にも観測している。

9月7日に実施した現地調査では、大穴火口の地表面温度分布で、2011年6月7日にW-6噴気孔の下方に確認された地熱の高い箇所が引き続き確認された。なお、同日及び10月18日に実施した現地調査では、八幡焼付近の地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり100トンと前回(2011年7月6日)の50トンと比べて増加し、火山ガス放出が続いている。

火山性地震は9月は少ない状況、10月はやや多い状況で経過した。

10月4日、6日、11日、21日及び27日に火山性微動が発生した。これらの火山性微動に先立って或いは伴って、浄土平の傾斜計(大穴火口の東約1km)では、火口方向上がりの微小な傾斜変動が観測されたが、微動の終了後に収まった。火山性微動の発生前後で、噴気の状態、夜間に大穴火口が明るく見える現象及び地震活動に特段の変化は認められなかった。吾妻山で火山性微動が観測されたのは、2010年8月1日以来である。

伊豆東部火山群 (34°54'11"N, 139°05'41"E)

9月18日夜から伊東市新井から伊東市汐吹崎沖付近を震源とする微小な地震が増加し、9月23日にかけて地震活動が活発化した。震度1以上となる地震はなく、地震活動は9月24日以降低下し、活動以前の状態に戻ってきている。

地震活動に先行して、9月17日夕方から東伊豆町に設

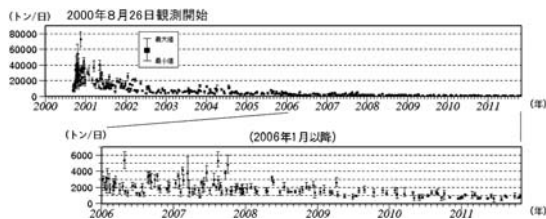


図 2. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年8月26日～2011年10月31日）

置している東伊豆奈良本体積ひずみ計で縮みの変化が認められ、伊東市に設置している猪山傾斜計でも変化が始まったが、地震活動の低下とともにその変化も鈍化し、9月23日以降は特段の変化は認められなかった。

なお、9月22日未明には、伊東市宇佐美付近のやや浅い場所を震源とする地震が一時的に増加したが、この地震活動は地下深くのマグマの活動と直接関係はないと考えられる。その他、今期間は震度1以上を観測した地震は2回で、9月8日13時44分と9月10日23時17分には、マグニチュードがそれぞれ2.7と2.9（暫定値）の地震が発生し、熱海市網代と東伊豆町奈良本等で震度1を観測した。

噴火に結びつくような低周波地震及び火山性微動は観測されていない。

三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

噴煙高度は火口縁上100～600mで経過した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中3回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり700～900トンと、やや多量の火山ガス放出が続いている。三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は少ない状態が続いている。

9月23日頃から、振幅が20分間程度の間隔で間欠的に増大する連続微動が発生していたが、振幅が次第に減衰し、10月28日頃に収まった。微動の発生に際して、その他の観測データに特段の変化はみられなかった。

全磁力観測では、火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

硫黄島 (24°45'02"N, 141°17'21"E (摺鉢山))

地震活動は2011年2月末頃から高い状態が続いている。

国土地理院の観測によると、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から12月にかけて一時鈍化したが、2011年1月末頃から隆起速度が増加し、現在も続いている。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。元山の南東側では、8月26日頃から9月2日頃にかけて局所的な西向きの変動がみられた。

福德岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われなかった。これらの機関のこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

阿蘇山 (32°53'01"N, 131°05'49"E (中岳))

中岳第一火口の湯だまり量は、期間中9割（8月：8～9割）で変化はなかった。湯だまりの表面温度は9月は47～56℃、10月は49～58℃（8月：48～57℃）であった。9月15日15時55分頃、火山性微動の発生に伴い、阿蘇火山博物館の火口カメラで湯だまり中央よりやや東側で濁りが確認された。9月28日、10月7日、12日及び27日に実施した現地調査では、湯だまり中央部で噴湯現象を観測した。赤外放射温度計による観測では、南側火口壁の最高温度は9月は57～59℃、10月は56℃（8月：92～137℃）と8月と比較して低下した。赤外熱映像装置による観測では、温度分布には特段の変化はみられなかった。

孤立型微動、火山性地震は少ない状態で経過した。9月15日15時55分頃から継続時間約11分間の振幅の小さな火山性微動が発生し、9月16日には12回と一時的に増加した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中6回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり300～500トンと少ない状態で経過した。

霧島山 (新燃岳) (31°54'34"N, 130°53'11"E (新燃岳))

【噴煙等表面現象の状況】

新燃岳では、8月31日02時43分（期間外）に発生した小規模な噴火は9月6日13時50分まで継続した。翌7日06時00分に確認したごく小規模な噴火は、灰白色の噴煙が火口縁上300mまで上がり北東へ流れ、同日18時30分頃まで継続した。爆発的噴火の発生はなかった。いずれの噴火でも大きな噴石の飛散や火砕流の発生は確認されなかった。これらの噴火以外は、白色の噴煙が火口縁上概ね200m以下（最高高度は600m）で経過した。

10月7日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊、10月18日に陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第3飛行隊、9月13日、9月22日及び10月25日に航空自衛隊航空救難団新田原救難隊、10月31日に航空自衛隊航空救難団芦屋救難隊の協力を得て実施した上空からの調査では、新燃岳火口内に蓄積された直径600m程度の大きさの溶岩に特段の変化はなく、白色の噴煙が溶岩縁辺から上がっているのを確認した。9月22日の調査では、5月13日の調査と比較して、火口内に蓄積された溶岩の縁辺部から中央部にかけてわずかに低くなっているのを確認した。赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩縁辺が比較的高温な状態であった。また、2008年8月の噴火時に形成された西側斜面の割れ目の一部にやや温度の高い部分が認められた。

10月24日に実施した韓国岳及び新湯からの現地調査では、2008年8月の噴火時に形成された西側斜面の割れ目の数カ所から、白色の噴煙が高さ数m程度上がっているのを観測した。赤外熱映像装置による観測では、西側斜面の割れ目付近の一部に、やや温度の高い部分が認められた。

【地震や微動の状況】

火山性地震の月回数は9月が1,913回、10月が653回で前期間と比べて減少した。震源はこれまでと同様に、主に新燃岳付近の海拔下0~2kmに分布した。

8月31日02時41分(期間外)に振幅のやや大きな火山性微動が発生し、その後振幅が小さくなり9月4日19時20分まで継続した。このほか9月は振幅の小さな火山性微動が時々発生し、継続時間の月合計は125時間35分であった。10月は火山性微動はほとんど発生せず、継続時間の月合計は1分で、連続噴火のあった9月と比べて大幅に減少した。

【火山ガスの状況】

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中3回実施)では、噴火継続中の9月1日、2日は、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり2,000トン~2,200トンと多い状況であったが、9月29日には、300トンと少ない状態であった。

【地殻変動の状況】

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへのマグマの供給を示す変化が続いている。

傾斜計では、9月7日00時35分に発生した振幅のごく小さな微動に伴い新燃岳側のわずかな沈降を示す変化が認められた。その後は火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が9月は204回(そのうち爆発的噴火は141回)、10月は122回(そのうち爆発的噴火は91回)と活発な噴火活動が継続した。10月6日09時47分、10月15日06時39分、09時10分、10月30日20時58分の噴火では、大きな噴石が最大で3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達した。大きな噴石が3合目まで達したのは2010年6月22日以来である。また、ごく小規模な火砕流が9月1日、9月12日及び10月26日に東へ約200m流下した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中6回実施)では、一日あたり600~2,700トンとやや多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、特段の変化は認められなかった。GPSによる地殻変動観測では、2011年初め頃から島内の観測点間の距離がわずかに短くなる変化がみられたが、9月頃から鈍化している。また、国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、2011年8月は19万トン、2011年9月は69万トンであった。

薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

火山性地震は、少ない状態で経過した。

振幅が小さく継続時間が短い火山性微動が10月に2回発生した。

口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E)

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過した。

GPS連続観測では、新岳を挟む基線で2010年9月頃から伸びの傾向が続いている。

諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

御岳火口では、9月9日と9月12日に爆発的噴火が発生するなど、9月8日、9日、11日、12日及び10月1日に小規模な噴火が発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、10月7日、15日及び18日に御岳の南南西約4kmの集落で降灰が確認された。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測

した。

火山性地震は、9月9日から9月14日にかけてやや増加したが、その後は減少し、少ない状態で経過している。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

○人事公募

【名古屋大学大学院環境学研究科】

平成24年1月1日、学内共同教育研究組織として減災連携研究センター正式設置

同センター専任(環境学研究科協力教員を兼務)となる予定の教員を募集

職名: 准教授(1名)

着任日: 採用決定後、できるだけ早い時期

応募条件:

- 1) 学際的な地域災害文化論を創出できる意欲と能力を有すること。
- 2) 減災地域計画, 災害情報学, 災害社会心理, ハザード評価, リスク評価等, 災害・減災関連の学問分野において研究実績を有すること。
- 3) 博士の学位を有すること。
- 4) 環境学研究科で教育を担えること。
- 5) 減災連携研究センターの管理運営を行えること。

担当分野: 災害科学分野

応募書類

- 1) 履歴書
- 2) 研究業績一覧
- 3) 主な研究業績5編の別刷りもしくはコピー
- 4) これまでの研究教育実績と減災連携研究に取り組む抱負(2,000字以内)
- 5) 照会可能な方2名の氏名と連絡先

(なお、応募書類は本選考のためにのみ使用し、選考後は責任を持って処分させていただきます。予めご了承ください。)

応募締め切り: 平成23年12月9日(金) 必着

書類提出先: 名古屋大学大学院環境学研究科 庶務掛

〒464-8601 名古屋市中区不老町 D2-1 (510)

(注意: 封筒に「減災関係・准教授応募書類」と朱記すること。)

内容に関する問い合わせ先:

環境学研究科教授 鈴木康弘

suzuki@seis.nagoya-u.ac.jp

環境学研究科: <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/>

減災連携研究センター:

<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp>

(減災連携研究センターは平成22年12月1日に発足していますが、平成24年1月1日付けで専任教員を配置した組織として再スタートします。)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月14日送信しました)

【京都大学防災研究所】

1. 公募人員: 教授1名
2. 所 属: 地震・火山研究グループ 火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域
3. 研究内容:

我が国で最も活動的な火山である桜島や、霧島火山帯に属する火山群をテストフィールドとして進めてきた火山噴火予測と、それに基づく火山災害軽減を目指した研究を行うとともに、共同利用・共同研究拠点の活動の一環として、火山災害軽減を目指した国内外の研究活動の企画・推進、地震・火山研究グループや研究所内の研究者等と連携した研究活動推進、および、火山活動研究センターのマネジメントを行う。

また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。

4. 任用時期: 平成24年4月1日以降の可能な限り早い時期
5. 応募資格: 博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. 提出書類: 次の(1)~(6)各一式

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧(審査付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの)
- (3) 主要論文別刷(コピー可)5編
- (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
- (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内)
- (6) 推薦書、または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先

7. 公募締切: 平成23年12月12日(月)【必着】

8. 書類提出先:

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室

火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域 教授候補者選考委員会 宛

(封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること)

9. 問い合わせ先:

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区担当事務室

火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域 教授候補者選考委員会 宛

e-mail : apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp

(封書または電子メールに限る)

10. その他 :

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。詳細：http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/koubo/koubo82.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月20日送信しました)

【東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻】

公募要項

1. 職名および募集人員：教授 1 名。
2. 所属：東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻 固体地球物理学講座。
3. 研究分野等：地震の発生機構、火山噴火のメカニズム、波動伝播などの研究を通じて、固体地球の構造とダイナミクスの研究を発展させる能力と研究指導力を有する方。
4. 教育研究指導：理学部宇宙地球物理学科および大学院理学研究科地球物理学専攻における教育と研究指導を担当する。
5. 応募資格：博士の学位を有し、研究と教育への情熱と優れた業績を有する方。国籍は問わないが、日常的に日本語が使えることが望まれる。
6. 着任時期：2012年4月1日以降のできるだけ早い時期。
7. 応募方法：自薦または他薦。
8. 提出書類
 - (1) 履歴書（学歴と職歴）
 - (2) 研究論文等リスト（査読有論文，査読無論文，総説，著書に分類し，主たる成果5編に印をつけてください）。
 - (3) 研究教育実績リスト（学生・院生の指導実績，学会活動やプロジェクト研究推進の実績，受賞など）に分類）。
 - (4) 主たる査読有論文5編の別刷（コピー可）。
 - (5) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）。
 - (6) 着任後の研究と教育の計画と抱負（研究と教育，各A4用紙2枚以内）。

(7) 応募者について照会可能な方2名の氏名と連絡先（住所，電話，e-mail）。

◎他薦の場合は，推薦書の他に上記事項(1)-(5)の概要がわかる書類。

9. 応募・推薦の締切：2011年11月15日（火）（必着）
封筒には「教員応募書類」と朱書きし，必ず書留で郵送して下さい。応募書類は返却いたしません。なお，応募書類に含まれる情報は，選考および採用以外の目的には使用いたしません。

10. 書類提出先および問い合わせ先

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号

東北大学大学院 理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター

松澤 暢 地球物理学専攻長宛

Tel : 022-795-3928 (直通);

Tel : 022-225-1950 (代表); Fax : 022-264-3292

E-mail : matuzawa@aob.gp.tohoku.ac.jp

11. 固体地球物理学講座の概要

当講座は、明治44年（1891）の東北大学（理科大学）創立時の物理学科に起源を持ち、昭和20年（1945）に地震学講座として整備され、平成6年（1994）の大学院重点化に伴って固体地球物理学講座へと移行した。平成8年（1996）には、科学技術庁防災科学技術研究所（現在の独立行政法人 防災科学技術研究所）を連携先として連携併任分野（現在の連携委嘱分野）が発足した。現在、地震・噴火予知研究観測センターと協力しながら教育・研究を行っている。詳しくは、当講座のホームページ <http://www.zisin.gp.tohoku.ac.jp/index-j.html> をご覧ください。

◎2011年9月15日現在の構成員

教授：佐藤春夫（2012年3月31日退職予定，後任ポストが本公募対象）

教授（連携委嘱）：藤原広行（防災科学技術研究所）
准教授：西村太志

准教授（連携委嘱）：藤田英輔（防災科学技術研究所）

助教：中原 恒，山本 希

12. 男女共同参画

東北大学は、男女共同参画を積極的に推進し女性教員を支援しています。詳しくは、大学のホームページ <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/2-3-2/4.htm> および <http://www.morihime.tohoku.ac.jp/> をご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月21日送信しました)

○(再送)

東北大学地球物理学専攻の教授公募の〆切が1週間後となりましたので再度の連絡です。

- ・職名および募集人員：教授1名。
- ・所属：東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻 固体地球物理学講座。
- ・研究分野等：地震の発生機構，火山噴火のメカニズム，波動伝播などの研究を通じて，固体地球の構造とダイナミクスの研究を進展させる能力と研究指導力を有する方。
- ・応募・推薦の締切：2011年11月15日（火）（必着）
詳しくは，火山学会のWeb

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/koubo.html>

または当専攻のWeb

<http://www.gp.tohoku.ac.jp/recruit/pdf/koubo20110916.pdf>

をご覧ください。

東北大学大学院 理学研究科
地球物理学専攻長（専攻教授選考委員長）松澤 暢
e-mail : matuzawa@aob.gp.tohoku.ac.jp

Tel : 022-795-3928（直通）；

Tel : 022-225-1950（代表）； Fax : 022-264-3292

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月8日送信しました）

【東工大地球惑星科学専攻】

(1) 地質学

東京工業大学理工学研究科 地球惑星科学専攻
助教1名

（任期5年，再任1回可3年）

専門分野：地質学

応募締切：11月30日

内容については下記をごらんください。

<http://www.geo.titech.ac.jp/koubo/koubo2011/jokyochishitsu/jokyochishitsu.html>

(2) 固体地球科学

東京工業大学理工学研究科 地球惑星科学専攻 助教1名

（任期5年，再任1回可3年）

専門分野：固体地球科学

応募締切：11月30日

内容については下記をごらんください。

<http://www.geo.titech.ac.jp/koubo/koubo2011/jokyokotai/jokyokotai.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月12日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 職種：特任研究員（特定短時間勤務有期雇用教職員（非常勤））
2. 研究テーマ：以下の7テーマ（順不同）を対象とする。
 - (1) 高エネルギー素粒子地球物理学（大久保修平・田中宏幸）
 - (2) 海半球ネットワーク地磁気データによる西太平洋地域地磁気永年変化の解明（清水久芳・歌田久司）
 - (3) 地殻・マントル岩石レオロジー（平賀岳彦）
 - (4) 深部低周波微動の検出に関する研究（小原一成）
 - (5) 新しい実験地震学の開拓（吉田真吾・中谷正生・波多野恭弘）
 - (6) 媒質境界と相互作用する動的破壊現象の力学解析（山下輝夫・亀 伸樹）
 - (7) 無人ヘリによる火山観測システムの開発（金子隆之・大湊隆雄・小山崇夫・武尾 実・青木陽介・安田 敦）
3. 募集人員：若干名
4. 応募資格：着任時に博士の学位を有する者。
応募前に各テーマの担当教員に連絡し，よく相談すること。
5. 採用予定時期：2012年4月1日以降の着任可能な日
6. 任期・再任：任期は着任日から2013年3月31日まで，再任は1回のみ。
7. 待遇：東京大学特定短時間勤務有期雇用教職員の就業に関する規程の定めるところによる。
勤務時間は週35時間。
8. 選考方法：原則として書類選考。ただし面接を行うこともある。
9. 提出書類：
 - ・履歴書（市販用紙，東京大学統一様式 http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html でも可）
 - ・研究業績リスト（査読の有無に分類）
 - ・主要論文の別刷り3編（学位論文は要旨のみ），コピーも可
 - ・研究歴（A4用紙2枚以内）
 - ・採用後の研究計画（A4用紙2枚以内），研究テーマ（上記2）を明記のこと。
 - ・応募者について意見を伺える方1～2名の氏名及び連絡先
10. 応募締切：2011年11月30日（水）必着
11. 提出書類送付先：

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所庶務チーム（人事）
電話 03-5841-5668

注意：封筒表に「特任研究員応募書類在中」と朱書きの上、書留にて郵送のこと

12. 問い合わせ先：

(公募全般について) 東京大学地震研究所 数理系研究部門 宮武 隆

電話：03-5841-5696

電子メール：miyatake@eri.u-tokyo.ac.jp

(各テーマについて) 各担当教員(連絡先などの問合せは上記宮武まで)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月13日送信しました)

○平成23年度地震火山災害予防賞公募のお知らせ

【東京大学地震研究所】

1. 表彰対象者

次の各号のいずれかに該当する者等を震災予防賞の表彰対象とする。

受賞者の所属、身分は問わない。ただし、過去に震災予防協会賞を受けたものは選考対象から除く。

- 一 野外観測・室内実験の技術的支援によって、地震及び火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。
- 二 災害記録や古文書の発掘・整理によって、地震及び火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。
- 三 その他の技術的支援によって、自然災害の予防軽減及び地震工学の発展に功績のあったと認められる者。

2. 応募方法

候補者の氏名・所属・推薦理由(自薦・他薦を問わない)をA4用紙(別紙様式)にまとめ、以下の選考委員会へ提出してください。提出書類は返却しません。また応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。

3. 応募締切

平成23年10月31日(月)午後5時

4. 応募書類提出先

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所事務部庶務チーム宛

封書を用い、表に「地震火山災害予防賞応募書類」と朱書してください。

5. 問い合わせ先

東京大学地震研究所海半球観測研究センター

川勝 均

TEL：(03) 5841-5817

E-mail hitosi@eri.u-toku.ac.jp

詳細：<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/yobosyokobo2011.htm>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月21日送信しました)

○平成24年度 京都大学防災研究所の共同研究の募集 【京都大学防災研究所】

1. 公募事項

A. 防災研究所外の国内外の研究者を研究代表者とする共同研究

- 1) 一般共同研究
- 2) 萌芽的共同研究(注1)
- 3) 一般研究集会
- 4) 長期滞在型共同研究(注2)
- 5) 短期滞在型共同研究(注2)

(注1) 大学院生(博士後期課程)および所内研究者が研究代表者となることも可

(注2) 大学院生(博士後期課程)が研究代表者となることも可

B. 自然災害研究協議会が企画提案する共同研究

- 6) 重点推進型共同研究

C. 所内研究者が研究代表として推進する拠点の共同研究

- 7) 拠点研究
- 8) 特定研究集会

D. 所外利用者による施設・設備利用の共同研究

- 9) 施設・設備利用型共同研究

2. 申請資格：国立大学法人、公・私立大学、国公立研究機関及び独立行政法人機関の教員・研究者又はこれに準ずる国内外の研究者で、京都大学防災研究所の教員以外のもの。ただし、萌芽的共同研究、長期・短期滞在型共同研究は大学院生(博士後期課程)が研究代表者となることもできます。また、萌芽的共同研究については、必要な場合に限り防災研究所の教員も代表者となることができます。

3. 申請方法：所定の様式による申請書に必要事項を記載の上、各1部を提出ください。

4. 研究期間：別紙共同研究公募要領のとおり

5. 申請期限：平成23年12月16日(金)

6. 提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄

京都大学 宇治地区事務部 研究協力課 共同利用担当

(Tel: 0774-38-3350 Fax: 0774-38-3369,

E-mail: kyodo2012@dpr.kyoto-u.ac.jp)

7. 選考及び通知：申請課題の採否は、公正な審査を行い、防災研究所共同利用・共同研究拠点委員会にて決定します。採択決定通知は申請者あて3月下旬(予

定)に行います。経費通知は6月頃の予定です。

8. その他 :

- 1) 本共同研究に関する事項・申請書の様式は、Webサイトで確認することができます。
(http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html)
- 2) 申請は、それぞれ別紙様式によるものを使用してください。なお、申請書は電子媒体の添付ファイルで送信ください。書式「Microsoft Word形式のみ」が必要な場合は上記ホームページからダウンロードしてください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月9日送信しました)

○IAVCEI 2013 のセッション募集

会員の皆様

2013年7月に鹿児島市でIAVCEI(国際火山学及び地球内部化学協会)の学術総会が開かれます。IAVCEIとしては30年ぶりに日本で開催される学術総会です。この総会は近年の日本の火山研究を世界にアピールするとともに、世界の研究者と直接知り合い情報交換できる絶好の機会となります。

提案されたセッションはScience committeeで判断・整理し、セカンドサーキュラーで、講演申し込みの対象セッションとして公開されます。

この機会に皆様からの積極的な提案を希望します。セッション提案したい方は下の要領で応募下さい。

The main theme : Forecasting volcanic activity : reading and translating the messages of nature for society.

Submission should contain the following items.

1. Name of the proposed session.
2. Names of conveners with affiliations and email addresses. The leader should be marked.
3. The content of the proposed session (<300 words) . Should include brief overview and significance of the proposed session, and fields of the expecting contributors.
4. Names of potential keynote speakers with affiliations.
5. Special consideration needed by the scientific committee, if any.

Please send the proposal to Setsuya Nakada (nakada@eri.u-tokyo.ac.jp) till 31 December 2011.

IAVCEI 2013 Science Committee : Patrick Allard, Ray Cas, Kathy Cashman, Agust Gudmundsson, Jennie Gilbert, Jun'ichi Kimura, Joan Marti, Steve McNutt, Setsuya Nakada (chair) , Paolo Papale,

Steve Sparks

Important data :

Session proposal deadline : 31 December 2011 Second circular : September 2012

Abstract deadline : January 2013

Conference : 20-24 July 2013

Web site of IAVCEI 2013 : <http://www.iavcei2013.com>

IAVCEI 2013 実行委員会学術部会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月5日送信しました)

○「平成23年度 東濃地科学センター 地層科学研究情報・意見交換会」開催のご案内について

【独立行政法人 日本原子力研究開発機構東濃地科学センター】

日時:平成23年11月1日(火)13:00~17:00

場所:瑞浪市地域交流センター「ときわ」(岐阜県瑞浪市)

※定員:約150名

「瑞浪超深地層研究所 深度300m 水平坑道見学会」

日時:平成23年11月2日(水)9:15~12:00

場所:瑞浪超深地層研究所

※定員:約40名

※いずれも、申込者が多数の場合は、先着順とさせていただきます。ご了承下さい。

※入場無料(事前の申し込みが必要です。)

申込先

独立行政法人 日本原子力研究開発機構
東濃地科学センター 瑞浪超深地層研究所
地層処分研究開発部門

結晶質岩工学技術開発グループ

E-メールアドレス:tono-koukankai2011@jaea.go.jp

ホームページアドレス:

<http://www.jaea.go.jp/04/tono/index.htm>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月21日送信しました)

○2011年火山性流体討論会の案内

開催日時・場所

2011年11月18~20日(金曜~日曜日)

東北大学川渡セミナーハウス

〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字原75

(<http://staff.aist.go.jp/miyagi.iso14000/Works/Seminar/VolFlu>)

参加費用(予定)

5,000円程度(二泊五食付)(学生参加者は減額の可能)

性があります)

新学術領域「地殻流体」からの援助により、多少の交通費補助が可能です

(学生の方を優先させていただきます)。また、18日往路に関しては、仙台—川渡セミナーハウス間でバスを運行する予定となっております。

出席申込フォーマット

出席を希望される方は、10月23日までに以下のフォーマットに記入して奥村(sokumura@m.tohoku.ac.jp)までメールで申し込みしてください。

…………… 申込フォーマット ……………

1. 氏名(ふりがな):
2. 連絡先(メールアドレスまたは電話番号など):
3. 所属:
4. 身分(学年など):
5. 発表希望: 発表する・しない(する場合、仮タイトル)
6. 希望発表時間(30分など):
7. 交通費補助の希望と予定の交通経路: 希望する・しない
8. 宿泊予定(該当する項目を残して下さい):
全日宿泊, 11/18のみ宿泊, 11/19のみ宿泊
9. 必要な食事:
全食事, 11/18夕, 11/19朝, 11/19昼, 11/19夜, 11/20朝
10. そのほか:(ご意見などあれば記入ください)
……………

申込・問い合わせ先(2011年火山性流体討論会幹事)

奥村 聡(東北大学大学院理学研究科地学専攻)
sokumura@m.tohoku.ac.jp

三輪学央(東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻)

miwao@zisin.gp.tohoku.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月7日送信しました)

○海洋調査技術学会「第23回研究成果発表会」の開催について

日 程:平成23年11月1日(火)午前10時~2日(水)午後4時30分

会 場:海上保安庁海洋情報部7階大会議室(東京都中央区築地5-3-1)

(最寄駅)大江戸線「築地市場」駅, 東京メトロ日比谷線「東銀座」駅, JR線山手線他「新橋」駅(プログラムなど詳細は<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmst/>をご覧ください。)

参加費:無 料

(連絡先)海洋調査技術学会 事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16

海洋船舶ビル8階

CANPAN センター ACNet 事務局内

TEL 03-5251-3967 FAX 03-3504-3909

E-mail: ac185-jsmst@canpan.org

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月14日送信しました)

○高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム「ウィンター・サイエンスキャンプ '11-'12」参加者募集

サイエンスキャンプは先進的な研究テーマに取り組んでいる日本各地の大学・公的研究機関等(10会場)で、冬休み期間中に本格的な実験・実習が受けられる、高校生のための科学技术体験合宿プログラムです。これまでの2泊3日のプログラムに、今年度より3泊4日以上での探究・深化型プログラム「サイエンスキャンプDX」が加わり、さらに充実した内容で実施します。

開 催 日:2011年12月25日~2012年1月7日の期間中の2泊3日~3泊4日

対 象:高等学校, 中等教育学校後期課程または専門学校(1~3学年)

会 場:大学, 公的研究機関(10会場)

定 員:受け入れ会場ごとに10~40名(計206名)

※前年度平均応募倍率2.5倍

参 加 費:無料(自宅と会場間の往復交通費は自己負担。宿舎・食事は用意します)

応募締切:2011年11月8日(火)郵送必着

主 催:独立行政法人 科学技術振興機構

共 催:受入実施機関

ホームページ:<http://ppd.jsf.or.jp/camp/>

応募・問い合わせ先:サイエンスキャンプ本部事務局

(公財)日本科学技術振興財団 振興事業部内

電話:03-3212-2454 FAX:03-3212-0014

E-mail:camp@jsf.or.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月20日送信しました)

○研究集会のご案内

【東京大学地震研究所】

研究集会「火山現象のダイナミクス・素過程研究」

日時:11月8日(火)・11月9日(水)

プログラム:<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/yujiro/meeting/2011Program.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月4

日送信しました)

○火山防災国際ワークショップ 2011 のお知らせ

火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ 2011

ーリアルタイム火山災害評価と行政対応ー

巨大噴火 それは「想定外」か?

<http://www.yies.pref.yamanashi.jp/is/workshop/20111011.pdf>

http://www.bosai.go.jp/news/press_release/20111013_01.pdf

日時:平成 23 年 11 月 2 日(水)・11 月 4 日(金)

Date: Nov. 2 and 4, 2011

主催:山梨県環境科学研究所・(独)防災科学技術研究所
後援:特定非営利活動法人日本火山学会

第 1 部 山梨環境研:大規模火山災害のクライスマネージメント

第 2 部 防災科研:大規模火山災害の技術的評価について

参加申込:

山梨県環境科学研究所 Tel:0555-72-6211

Fax:0555-72-6204

e-mail:soumu@yies.pref.yamanshi.jp

防災科学技術研究所 e-mail:fujita@bosai.go.jp

プログラム

平成 23 (2011) 年 11 月 2 日(水)

山梨県環境科学研究所(山梨県富士吉田市)

10:00 開会の辞

山梨県環境科学研究所 所長 荒牧重雄

10:10 概要説明 山梨県環境科学研究所 内山 高

第 1 部:大規模火山災害のクライスマネージメント

10:20 火山リスクへの科学的・緊急時マネージメント対応:モンセラト・他の事例からの教訓

Barry Voight (ペンシルベニア州立大学)

11:05 火山リスクへの科学的・緊急時マネージメント対応:ベスビオの事例

Augusto Neri (イタリア国立地球物理学火山学研究所)

(11:50-13:00 昼食)

13:00 我が国の防災行政と 2011 年霧島山(新燃岳)噴火における火山防災対応

西口 学(内閣府(防災担当)地震・火山・大規模水害対策企画官)

13:20 火山噴火時の気象庁の対応について

山里 平(気象庁火山課長)

13:40 霧島山新燃岳噴火における高原町の対応につ

いて

日高光浩(宮崎県高原町長)

14:00 新燃岳噴火への対応(霧島市)

宇都克枝(鹿児島県霧島市危機管理監)

14:20 平成 23 年霧島山新燃岳噴火および日本の火山におけるクライスマネージメントについて

藤井敏嗣(環境防災総合政策研究機構・東大名誉教授)

(14:40-15:05 休憩)

15:05 総合討論(座長:荒牧重雄)

16:30 閉会の辞

山梨県環境科学研究所副所長 佐藤浩一

平成 23 (2011) 年 11 月 4 日(金)

防災科学技術研究所(茨城県つくば市)

09:30 開会の辞

防災科学技術研究所 理事長 岡田義光

第 2 部:大規模火山災害の技術的評価について

09:45 火砕流とサージ災害のモデリング:火山防災対策への仮定,性能,制限及びインテグレーション
Barry Voight (ペンシルベニア州立大学)

10:30 数値モデルによる爆発的噴火火山災害評価:ベスビオへの適用および性能と限界

Augusto Neri (イタリア国立地球物理学火山学研究所)

11:15 日本における火山災害の定量化:確率的なハザードと損失モデリングのフレームワークについて
Christina Magill (オーストラリア マッコーリー大学)

(12:00-13:00 昼食)

13:00 大規模溶岩流シミュレーションの技術開発について

藤田英輔(防災科学技術研究所)

13:20 火山噴煙シミュレーションの現状と課題
鈴木雄治郎(東京大学地震研究所)

13:40 火砕流災害評価のための次世代型リアルタイム火山災害予測システム:GEO Grid 火山重力流シミュレーションと VHub プロジェクト

宝田晋治(産業技術総合研究所)

14:00 噴火シミュレーションの火山災害軽減への活用
井田喜明(アドバンスソフト株式会社 東大名誉教授)

(14:20-14:30 休憩)

14:30 総合討論(座長:藤田英輔)

15:00 閉会の辞 防災科学技術研究所 棚田俊收

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 25 日送信しました)

○「懇親会」事前予約のお願い

日本火山学会

2011年秋季大会にご参加予定の皆さま

懇親会（10月3日午後6時～8時、旭川大雪地ビル館）に参加を予定しておられる方は、予約をお願いします。

10月3日当日の参加受付は会場の都合により、申し受けない可能性があります。

懇親会参加の予約締め切りを延長しました。

参加希望者は忘れずにお申し込みください。

- 懇親会参加事前予約締め切り：9月16日（金）
- 参加費：一般5,500円（事前申込は5,000円）、学生3,500円（事前申込は3,000円）
- 申込先：和田恵治（北海道教育大学旭川校）

wada.keiji@a.hokkyodai.ac.jp

- 氏名・所属・連絡先を明記し、メールの件名（タイトル名）を必ず【懇親会申込】としてください。
- （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月9日送信しました）

○2012年日本地球惑星科学連合大会セッション提案について

日本火山学会の皆さま

- 日本地球惑星科学連合大会セッション提案募集のお知らせ

2012年5月20日（日）～25日（金）の日程で開催されます。

日本地球惑星科学連合大会のセッション提案募集が始まっています。

応募締切は10月21日（金）です。

詳細は【提案サイト】

<http://www.jpogu.org/meeting/session.html>

をご覧ください。

今年は9つもの火山学関連セッション提案があり、大会が大きく盛り上がりました。

なお、セッションの提案母体として日本火山学会を含めたい場合には、日本火山学会大会委員会（kazan-taikai@ymail.plala.or.jp）にご連絡いただき、内諾を受けてください。

皆さまの積極的なセッション提案を期待しています。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月14日送信しました）

○日本火山学会秋季大会のお知らせ

日本火山学会の皆さま

- 日本火山学会秋季大会プログラム正式公開のお知らせ
- プログラム正式版が公開されました。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/doc/kazan2011/images/VSJ2011Program.pdf>

9月上旬のWebでのプログラム暫定公開後に発表キャンセルなどの変更がありましたので、新しいプログラムで発表の確認をお願いします。

プログラム以外の変更点は、以下の点です。

- ポスター発表のポスターの大きさが横約90cm（A0ノビ）となりました。
縦は170cmまで使えます。
- 2日目（10月3日）午後の時間が変更となり、懇親会開始も30分早い18：00からとなりました。
- 3日目B会場の発表時間が一部繰り上がり、発表番号も変更になりました。
- 懇親会参加事前予約締め切り：9月16日（金）に延長です。

当日受付できない場合もありますので、お申し込みを忘れずに。

なお、都合により発表できない等の変更がありましたら、早急に【必ず】大会事務局 kazan-taikai@ymail.plala.or.jp にご連絡ください。

皆さんの発表を視聴するために遠方からいらっしやっている会員のかたもいらっしやいます。連絡は忘れずをお願いします。

- 日本火山学会秋季大会 学生優秀発表表彰のお知らせ
- 秋季大会の口頭またはポスター発表において、学生会員の発表を対象に特に優秀な研究発表（若干名）の表彰を行います。

学生会員の皆さんには以下の審査項目に留意して発表をお願いします。

立派な研究発表を期待しています。

- (1) 視認性：スライド or ポスターの図表・デザイン・文字は見やすいか
- (2) 表現力：発声・説明（図の指し示し方など）は明瞭か
- (3) 発表時間の有効活用
 - ・口頭：規定時間を超過・短縮終了していないか
 - ・ポスター：説明がコンパクトになされているか
- (4) 論理構成：論理的確か・結論はデータにより支持されているか
- (5) 研究目的・結論の明瞭性：目的・結論が明瞭に示されているか
- (6) データ充実度：十分な量 and/or 質のデータが提示されているか
- (7) 既存研究の理解度：関連する既存研究は十分に参照されているか
- (8) 研究の独自性・発展性：研究の獨創性・当該分野発

展への貢献度

- (9) 学生の主体性：研究に主体的に関わっているか、質疑応答を自身で行っているか

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月15日送信しました)

○火山防災シンポジウム「北海道の火山とともに」(10/1) ご案内

各位

日本火山学会 2011 年公開講座の開催について

日本火山学会秋季大会の期間中に、火山防災シンポジウムを開催いたしますので、ご参集いただけますと幸いです。

日本火山学会 火山防災委員会

世話人：荒牧重雄・中村洋一・藤田英輔

.....

火山防災シンポジウム「北海道の火山とともに」

日時：2011 年 10 月 1 日 (土) 14:30~17:30

場所：旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場大会議室 (旭川市神楽 3 条 7 丁目)

主催：旭川市教育委員会・日本火山学会

プログラム (敬称略)

14:30 開会の辞

荒牧重雄 (山梨県環境科学研究所所長・東京大学名誉教授)

14:35 挨拶 小池語朗 (旭川市教育長)

14:40 第 1 部 基調講演会

司会：藤田英輔 (防災科研・日本火山学会火山防災委員会)

14:40-15:00 基調講演 1：田鍋敏也 (壮瞥町教育長)

2000 年有珠山噴火からの教訓：北海道の火山との共生

15:00-15:20 基調講演 2：伊藤和明 (NPO 防災情報機構会長・元 NHK 解説委員)

歴史に見る火山災害

15:20-15:40 質疑応答

(休憩：15:40-16:00)

16:00 第 2 部 パネルディスカッション

テーマ：北海道の火山と災害の教訓，十勝岳の火山防災，火山と共生するための防災等

パネラー：

山中 漠 (前壮瞥町長)，伊藤和明，岡田 弘 (北海道大学名誉教授)，村上 亮 (北海道大学教授)，中川光弘 (北海道大学教授)，宮村淳一 (気象庁札幌管区気象台火山監視・情報センター所長)，柴

田哲史 (旭川開発建設部)，荒牧重雄

17:00-17:25 質疑応答

17:30 閉会の辞

中村洋一 (宇都宮大学教授・日本火山学会火山防災委員会)

「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。

また、日本火山学会の会員でなくても、自由に会議に参加できますので、これらの話題に関心のある方にはお知らせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月15日送信しました)

○日本火山学会 2011 年秋季大会アルバイト募集のお知らせ

日本火山学会 会員各位

2011 年 10 月 1 日~4 日において、旭川におきまして火山学会秋季大会および関連の行事が行われます。

学会期間中、学会運営に関して手伝っていただけるアルバイトの方を以下のように若干名募集いたします。

アルバイトの対象：学部学生および大学院生

アルバイトの人数：若干名

アルバイトの条件：時給 1000 円，交通費支給なし

アルバイト時間：基本的に学会中。午前・午後を単位としてアルバイトを行ってもらう予定。

アルバイト内容：会場準備，学会受付，講演会におけるタイムキーパー，照明，マイク係

アルバイトを希望の方は、以下のフォームに必要事項を記入の上、件名「火山学会アルバイト応募」のメールを m-yoshi@mail.sci.hokudai.ac.jp までお送りください。

申し込み締め切りは9月25日17:00までとさせていただきます。

また、応募人数を超えた場合は、先着順とさせていただきます。

件名「火山学会アルバイト応募」

.....

1. 名前 (ふりがな)
2. 所属
3. 学年
4. 連絡先電話番号
5. 連絡先メールアドレス
6. アルバイト希望および可能日 (以下の単位で希望日

に○、不可能な場合に×を書いて返信してください。

10月1日午後 14:00-18:00

10月2日午前 8:30-13:30

10月2日午後 13:30-16:30

10月3日午前 8:30-13:30

10月3日午後 13:30-17:30

10月4日午前 8:30-13:30

7. 特があれば希望の仕事など

8. その他

.....

お問い合わせは、m-yoshi@mail.sci.hokudai.ac.jp まで。
火山学会 2011 年秋季大会実行委員会
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月20
日送信しました)

○第 18 回公開講座「火山学者役」の募集について

「火山学会秋季大会の際に、日本火山学会第 18 回公開
講座が下記の要領で行われます。

子どもたちのグループにはいて火山学者としていっ
しょに実験したり、コメントしたり、子どもたちの声を
記録したりする「火山学者役」を募集しています。日本
火山学会員の応募をお待ちしております。若干の謝金を
用意させていただきます(学会で発表をされない方に限
ります)。

募集人員は 6 名で、定員に達し次第申し込みをうちき
ります。

申込は shayashi@gipc.akita-u.ac.jp (秋田大学 林信太
郎) まで。

9月28日までにお願いいたします。

日本火山学会第 18 回公開講座

「火山学者と火山を作ろう! マグマのおもしろ実験教
室 in 旭川」

主催: 日本火山学会 共催: 旭川市

日時: 10月1日(土曜日) 10時-15時30分(午前と午
後の部に分かれます)

会場: 旭川市博物館・郷土学習室, 中庭 ([http://www.
city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/
museum/index.html](http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/index.html))

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月26
日送信しました)

○日本火山学会秋季大会のお知らせ【ポスター発表】

日本火山学会の皆さま

■ポスター発表会場のお知らせ

ポスターセッションの会場は、大雪クリスタルホール

内にある旭川市博物館特別展示室になります。

旭川市博物館には学会参加者(名札必要)は、フリー
で入館できます。また博物館のご厚意で、館内の展示見
学も自由にできます。

ポスターは、10月2日(日)の午前中には貼り付けを
終えてください。コアタイムは、奇数番号が16~17時、
偶数番号17~18時になります。

ポスターのサイズは高さ170cm×幅約90cm(A0ノ
ビ=36inch)以内です。

旭川市博物館では、火山学会の開催にあわせて、特別
展示「日本国の黒曜石と火山研究」を10月2日(日)か
ら開催します。皆様のポスターも展示物として来館者に
見ていただきたいとの意向が博物館から寄せられていま
すので、ご協力いただけるかたは、ポスターを撤去しな
いでそのまま残してください。特別展示終了後に郵送返
送を希望されるかたは、学会事務局にご連絡ください。

■懇親会のお知らせ

10月3日(月)18:00から大雪地ビール館で開催さ
れる懇親会への事前申し込みを多数いただきありがと
うございます。懇親会参加費の支払いは大会受付時にお願
いします。なお、都合により懇親会をキャンセルされる
方は至急ご連絡くださるようお願いいたします。

懇親会への参加申込事前割引は、再度期限を延長して
9月28日(水)午前中まで受付ます。この日以降の参加
申し込み当日参加費

(一般¥5500, 学生¥3500)にさせていただきます。

また当日申込多数の場合は、参加をお断りさせていた
だく場合があります。

懇親会の参加/お問い合わせはメールで

wada.keiji@a.hokkyodai.ac.jp

まで。お願いいたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月27
日送信しました)

○日本火山学会秋季大会 学生優秀発表賞受賞者

先週旭川市で開催された日本火山学会秋季大会におけ
る学生優秀発表賞の受賞者が以下の4名決まり、大会会
場で表彰状と副賞(学会マグカップ)の授与が行われま
した。

学生優秀発表賞は、学生会員が発表する口頭またはポ
スター発表(全26件)を対象に、13名の審査員による公
正な審査が行ない、その中で特に優秀な研究発表を選考
し表彰するものです。

来年の秋季大会でも学生優秀発表賞の選考が行われる
予定です。

また5月に開催される連合大会でも、地球惑星科学セ

クションで学生優秀発表賞の選考がおこなわれる予定です。

学生会員の皆さんには、優秀発表賞の受賞をめざして、立派な研究成果をまとめることを期待しています。

—受賞者および研究発表題目—

佐野恭平（北海道教育大学旭川校）B1-05

微細組織観察から推定される白滝十勝石沢黒曜石溶岩の噴出過程

広井良美（東北大学大学院理学研究科）B1-16

十和田火山平安噴火におけるマグマ噴火—マグマ水蒸気噴火推移と本質物質変化の関係

畑 真紀（京都大学防災研究所）P63

沈み込み帯での流体の移動と部分熔融：Network—MT法データによる広域比抵抗構造イメージング

濱田 藍（九州大学理学府地球惑星科学専攻）P74

アナログ実験による柱状節理の形成過程の再現 entablature の再現を試みる

表彰写真等

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/doc/kazan2011/images/jusho.pdf>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月12日送信しました）

○訃報のお知らせ

本会会員 宮地直道様（日本大学）が、ご逝去されました。

慎んでお悔やみ申し上げます。

なお、葬儀は下記のとおり執り行われます。

千代田セレモニー

◇お通夜

2011年11月2日（水）

19時～20時

◇告別式

2011年11月3日（木）

11時～12時半

.....
神道の形式になります。

千代田ホール橋本

神奈川県相模原市緑区橋本 6-8-3

<http://www.chiyoda-ceremony.com/hashimoto/index.php#access>

TEL : 042-700-1233 FAX : 042-773-1103

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月31日送信しました）

○「環境賞」候補募集のご案内

対象：環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動表彰

- ・環境大臣賞
- ・優秀賞（副賞 100万円）
- ・優良賞（副賞 50万円）

募集締切り：2012年1月20日（金）

応募要綱・申請書

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/works/work01.html>

主催：日立環境財団，日刊工業新聞

後援：環境省

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月1日送信しました）

○故長岡信治会員の遺児育英資金募集について

日本火山学会会員の皆様，

長岡信治会員（長崎大学教育学部・教授）が今年7月10日に急逝されました（享年52才）。この度、遺児育英資金を募集しています。連絡先：長崎大学教育学部総務係（田中，馬場），電話：095-819-2262。

募金趣意書，申し込み用紙は，以下のURLからダウンロードできます。〆切が11月末です。会員の皆様のご理解をお願いします。

<https://box.yahoo.co.jp/guest/viewer?sid=box-l-k2wftfb6zuvs4m372472gysyey-1001&uniqid=617690a3-5d22-4755-bec6-3c3cf0319c8a&viewtype=detail>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月4日送信しました）

○2011年度・名簿作成に伴う登録内容確認のお願い

会員の皆様

2011年度・名簿作成に伴う登録内容確認のお願いを郵送にて差し上げております。

郵送した資料をご確認の上，登録内容に変更のある場合，または名簿の掲載内容に非公開を希望される項目がある場合には期限までに事務局までご連絡ください。

連絡方法は，郵送した資料に必要な事項をご記入の上メール，FAX，郵送での返信，または以下のホームページでの修正が可能です。

期限：2011年12月10日

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/meibo.html>

入力ページに入るために必要な会員番号は学会誌を郵送した封筒の宛名・右下に印刷されております。

メールアドレスは学会にご登録いただいたものに限りますのでご了承ください。

尚、ご郵送いたしました「登録内容確認依頼書」が1週間以内にお手元に届かない場合には事務局での手違いが考えられますので、その旨ご連絡ください。

火山学会事務局
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月15日送信しました)